

きらり 通信

平成29年3月17日（金）発行 第27号

福島県立須賀川養護学校

tel: 0248-76-2511 fax: 0248-72-4729

ホームページ <http://www.sukagawa-sh.f.c.ed.jp>



『病気の子供達の学習支援に向けて』

教頭 喜多見 久美

近年、医療の進歩等による入院期間の短期化や頻回化などにより、短期間で入退院を繰り返す者、退院後も引き続き治療や生活規制が必要なために学校への通学が困難な者など、入院して治療を受ける児童生徒の環境が大きく変化しています。平成26年5月の児童福祉法一部改正に際しては、長期入院児童等に対する学習支援を含め、小児慢性特定疾病児童等の平等な教育機会の確保等に係る措置を早急かつ確実に講じることなどを求める附帯決議が付されたところですが、病気を持つ子供達の学習支援体制については、様々な課題があるのが現状です。

今年度本校では文部科学省の事業を受け、公立岩瀬病院にも協力をお願いしながら、長期入院児童生徒の学習支援について何が出来るのか、検討を始めました。ICTを活用した学習支援、在籍校や医療機関との繋ぎ、自宅静養中の相談・学習支援等、地域の学校等からの依頼を受け、少しずつ支援が広がっています。地域の皆さんにさらに知っていただき、活用いただけるよう、地域の病気を持つ子供達の学習保障システムの構築を目指していきたくと思います。



病弱教育は、医療と連携しながら子どもの病状に応じた教育を行っています。入院、治療など生活規制が強い中、子供達が所属する学校と繋がりを持ち続けることは、大きな意義があります。学習面はもちろんですが、心の安定をもたらし、病気としっかり向き合う意欲が育つことで、治療にもよい効果を与えます。

病気の時でも教育はできます。病気の時だからこそ行ふべき教育があります。病気の子供の気持ちに心を寄せて理解しながら、子供達に「我慢」や「無理」をさせないために必要な支援を一緒に考えていきませんか？

今年度、ありがとうございました。

地域支援センター主任 深松 さつき

今年度も地域支援センター「きらり」では、以下のような取組を行ってきました。地域の皆様には大変お世話になりました。

4月からは校名が「須賀川支援学校」に変わります。“すべての子どもたちが笑顔で生活できるように”地域の皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っています。来年度もよろしくお願いいたします。

- 随時 ○ 悩みを一緒に考えたり、情報提供を行ったりする教育相談
- 保育園・子ども園・幼稚園、小学校、中学校、高等学校に伺い、支援・指導を一緒に検討する活動
- 発達に心配のある就学前のお子さんと保護者さんを対象にした「きらり親子教室」（11月から始まりました）
- 子どもを支える地域の関係者・関係機関との連携
- 8月 ○ 地域及び本校の教職員を対象にした実践講座及び懇談会の開催
- 1月 ○ 地域及び本校の教職員を対象にした授業公開及び懇談会の開催



まずはお気軽にお電話ください。

中学部弁論大会から

～日々の生徒と教師の話し合いを大切に～

中学部では、1月31日に弁論大会を実施しました。中学部の弁論大会は、生徒一人一人がテーマを決めて、伝えたい自分の思いを作文に書いたり、得意な表現方法を活用したりしながら、友達同士で発表し合うというものです。今回は、弁論大会に向けての学習の1コマを紹介したいと思います。

当日に向けては、国語などの時間で、生徒と教師がテーマや発表内容について、話し合うことから始めました。生徒と教師がじっくり話し合い、伝えたい事柄をあげ、文章を作成していきました。話し合いを進めると、「もっとこのようにしたい。」という思いが膨らむとともに、「それは違う。」という訴えもでてきます。それらを一緒に整理し、納得するものに仕上げました。文章作成に限らず、絵の披露、iPadやパソコンの操作なども大切にしました。話し合い、相談をしながら、必要なものの準備や練習を積み重ねました。

当日は、保護者の方にも参観していただきました。生徒たちにとって、多くの人の前での発表は、楽しみな一方、不安や緊張もあります。でも、しっかり学習してきたので大丈夫！緊張感のある中、「みんなに伝わるように大きな声で」など、めあても意識して、堂々と発表することができました！また、当日は参加を見合わせる生徒もいましたが、当日までの学習の中で、生徒と教師がしっかり向き合い、作文の内容や、参加の仕方を話し合いました。その中で、自分自身を見つめ、自分で決める姿は、大きな成長と考えます。生徒と教師が向き合う中、生徒の向上心や、何よりも友達への思いや優しさが感じられる弁論大会でした。

今後も生徒と教師、さらには生徒同士が向き合う、話し合うことからの学びを大切に、主体的に社会生活を送ろうとする力を育てていきたいと考えています。
(文責 中学部主事 齋藤 顕)



▲「初めての経験」



▲「私の好きなアニメ」



▲「去年がんばったこと、今年がんばること」



▲一人一人のテーマ



マンガでやさしくわかる 「アドラーの心理学」

著者：岩井 俊憲
シナリオ：星井 博文
作画：深森 あき



発行所：有限会社ヒューマン・ギルド
筆者の岩井先生がこの本の読み方としてこのように書かれています。

「わかる」→「できる」→「身につく」のステップの最後までたどり着けるように設計しています。どうか楽しみながらページをめくってください・・・と。

「アドラー心理学」と出会うことによって、人生は、どのように変わっていくのでしょうか？

【本の紹介者：高等部主事 滝沢昌彦】

～雑記～

平成30年度から小学校で、平成31年度から中学校で、「特別の教科 道徳」の開始、平成30年度より、高等学校における通級による指導の制度化、そして、福島県では、県立高校入試改革で現行の1期選抜（自己推薦）と2期選抜（学力検査）を統合し、全受験生に共通の学力検査を課す「前期選抜」に変更する方針が示されました。

様々な変化に対応しながら、地域支援センター『きらり』は、先生方や保護者の方と子どもの事を一緒に考え、「共に学び合い」「地域につながる」センターを今後も目指します。



